

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホームさざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成30年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明町の中心部、赤崎に位置し、設立されて8年目であります。近隣には銀行・農協・郵便局・消防署があり、地域と密着した場所に施設はあります。
庭先にある野菜畑では、誰もが安心して食べられる様に、全て無農薬での栽培。季節の野菜を収穫し、食卓へ並び、季節感を楽しませています。又、天草でとれた新鮮な海の幸も堪能されます。入居者様が普段とかわらない生活の継続支援と、安心して暮らせる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や畑のあるのどかな地域に位置し、ホームは平屋建てで、デイルームは採光も良く、ゆっくりしたスペースが確保されている。利用者は、安心した様子でのんびりと穏やかに過ごしている。食事は、ホームの菜園で採れた旬の無農薬野菜や果物、地元の魚などを使用し、職員が調理し、家庭的で美味しい料理が提供されている。施設長・管理者・職員も地域との関係が深く、ホームの理念を「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人らしい人生の継続支援」と明示している。今後、地域の「サロン」としての役割も大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示している。入居者様のその人らしい人生、それぞれのペースを大切にケアに取り組んでいる。	「その人らしい人生の継続支援にゆっくり・じっくり・しっかりと取り組む」を、ケアの拠り所としている。人格を尊重し、一人ひとりが自宅にいた頃と同じように過ごせるような支援に励み、理念の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームで行事がある際は、住民の方を招待している。	敬老会には一人暮らしの地域住民や行政職員・区長・ボランティア団体等に声を掛け、ホームで食事会・演芸等の催し物を行い利用者と一緒に楽しむ機会を作っている。施設長は老人会長等の支援を得て「地域のサロン作り」を目指しており、利用者と地域との交流をより深めるために努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解が乏しいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加される構成員からの助言を大切にしている。	運営推進会議は定期的開催され、ホームから入居者の状況・活動内容・行事・苦情・事故報告等が行なわれている。また、身体的拘束等の適正化確保のために委員会を運営推進会議内に設置するとして、取組を開始している。	施設長は、地域との交流を更に深めるために「サロンづくり」を目指している。運営推進会議において課題として検討すれば、委員からの支援やアドバイス等も期待できると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者や運営推進会議に参加される包括支援センターの担当者と電話やメール、会議の時に意見交換している。	定期的な報告・必要時の相談等、市担当者との適切な協力関係に取り組んでいる。包括支援センター職員とは日常的に相談・意見交換等が出来る関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、職員で見守りをして定期的に解除している。職員会議や運営推進会議で身体拘束について研修をしている。	身体的拘束等の適正化のための委員会が設置され、指針も策定されている。ホーム自身は「身体的拘束はしていない」との認識が高いように窺えた。「ホームにおける身体的拘束とは何か」について、玄関の施錠の現状や、帰宅願望の入居者への対応等、日常の具体的なケアの方法について振り返り、身体拘束について学び直すことも大切と思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で入居者様の個々のケアについて振り返る時間を設け、実践へつなげるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強不足である。これから研修や職員会議等で学びます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人様、御家族と面会にて施設入居にあたりご要望をお聴きした上で、十分説明し納得されたからの契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に要望が無いか聞くようにしている。又、面会時、受診時に意見を聴きとるようにしている。運営推進会議にもご家族の代表として参加頂き他の方の交流、意見交換を行う。	毎月の請求書送付の際に、管理者が利用者の状況を手紙で知らせたり、家族の面会の際に、コミュニケーションを増やすことに努め、意見や要望等が言い易い環境に配慮している。必要に応じ、電話で状況を細かに報告し、家族との信頼関係構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、職員会議、日中の中で共有し職員の意欲向上に努めている。スタッフ同士にて意見やアドバイスを話す。	職員会議では、利用者の一人ひとりの状況を共有し、今後の対応についての話し合いが行われている。また、行事・催し物についての準備等も行っている。管理者は職員の希望休暇・有給休暇等の取得に前向きに対応し、職員のストレス軽減に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務延長時間には、別日に早退させたり、勤務時間の調整を行っている。 やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議を開催している。外部研修の案内があった場合、希望者がいれば研修の機会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回あるブロック会議に参加して意見交換等行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在困っている事、不安な状態、要望等を聞きとり、解決方法を一緒に考え安心して過ごして頂けるように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み、契約時にゆっくりと話を聞かせて頂き、困り事、不安、要望等を把握する。入居後も御家族様との情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で御家族、御本人の要望を把握し、支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、布巾干し、たたみ、野菜の下処理、新聞折りなどでコミュニケーションを図り認知症の不穏状態が出現した時は、傾聴し寄りそうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族より、病院受診時の情報を受け取り、次回の薬の依頼、日々の状態や変化をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域へのドライブ、花見など外出の支援を行っている。知人御家族の面会時には、居室へ御案内しゆっくりと話しをされるように配慮している。	夜、テレビで放映されている懐メロ番組をビデオに撮り、日中にデイルームで流し、利用者が昔を思い出しながらゆっくりと楽しめるよう工夫している。また、馴染みのある地域へドライブし、昔の思い出と共にし、安心して暮らせる生活を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブル発生時、様子を見ながら、その状況に応じた対策を取る。入居者様同士の関係作りを深める為にコミュニケーションに参加する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞や状況をたずねる。お悔みに訪問。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な時にも、その日の行動や思いを否定しないで大切にしている。	言葉では上手く表現できず、不安や落ち着きのない様子が観察された際は、状況に応じて、思いにゆっくり寄り添い、慰め、家族に電話したり、一緒に外出するなどして、本人本位の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中でのコミュニケーションで、さりげない会話の中から知る事も多く、コミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や心身状態を把握し、その人が出来る事、有する力の中で出来る事をしてもらってる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議で課題とケアのあり方を検討している。家族面会時、ケアに対する要望もお聞きしている。	本人と家族の要望を基本に、アセスメントでニーズを把握し、ケアプランが策定されている。職員会議で利用者の状況や今後のケアについて話し合い、プランに沿ったケアの実践に努めている。3か月を目途にプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化時やケアの対応が重度かなと考えた時に記録し、職員会議の議題としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の方の訪問、社協行事への参加があるものの、多機能化までは取り組んでいないと思われず、課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや敬老会の資源を利用して協力をお願いしているが機会が少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する時は家族に連絡して、主治医への受診をお願いしている。緊急時は救急車の利用。	入所後も、これまでのかかりつけ医の継続受診を支援し、受診は家族が同行することを基本としている。ホームでは、朝・昼・夜とバイタルチェックを実施し、状態の変化時は、家族に連絡し、早めの対応・受診依頼を心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と連絡を密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの情報提供、退院時は病院情報とケア情報を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでは行ってないが、家族の要望でホームの方針について協議する様にしている。	ホームでの看取りは行ってない。ただ、家族の中には、最後までホームで暮らすことを希望する声もあることから、今後の検討課題と思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の為、職員会議で協議を行い実践している。避難訓練時に消防署員の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に地域の協力を受け、地域の協力体制が出来ている。	海近くに位置しており、町内での津波を想定した訓練には入所者と一緒に参加している。ホームでは10月に昼間の火災を想定した避難訓練に消防署職員の参加を得て実施し、避難時間を測定したり、応急手当等について学んでいる。	夜間想定での避難訓練の実施も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重し、利用者それぞれに合わせた対応を心がける。	入浴時、「脱いだ服はきちんとたたんでカゴに入りたい」等、利用者それぞれの思いを大切に受け止め、人格や誇りを尊重したケアを心掛けている。	「プライバシーとは何か」についての勉強会を行い、今のケアが十分に配慮されているかを振り返る機会があると良いと思われた。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思、希望等を尊重し利用者の思いに耳を傾け、安心して生活できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的にドライブ、外出を行っている。本人の希望に副える様実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問により散髪は出来ている。買い物希望があれば職員付き添いで行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立作成は行っていないが、その日の調理担当者が敷地内にある畑で取れる旬の野菜を使って調理し利用者に提供している。下処理の手伝いをして頂く。	毎食、職員の手料理による家庭的な食事が提供され、利用者は職員と一緒に食事している。食材は、ホームの菜園で採れる旬の野菜や、地域の魚屋から調達する新鮮な魚等、地産地消・郷土料理等に配慮されている。訪問調査当日の昼食も優しい味付け・食べやすさに配慮した切り方、料理に合った器等食事を楽しむことへの支援が見られた。お正月はお節料理・花見や避難訓練日には仕出し弁当をとったり気分を変えての食事支援もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行っている。水分摂取の少ない方には、こまめにチェックし水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方にも職員が付き添い一緒に行っている。義歯に不具合のある方は訪問歯科が往診される。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を確認しながら、オムツ、パット類等の情報を職員で、共有し行っている。	水分摂取量の記録や排泄チェック表を参考に、して個々人の状態に沿ったトイレ誘導を心掛け排泄の自立支援に努めている。入院中はオムツ使用だった利用者が体力を回復し、職員の誘導によりトイレでの排泄ができるように改善されたケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、チェック表を確認し、排便の状態を頭に入れ、水分や食事等に気を配っている。入居者様によっては下剤などで、状態を見ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人その人によった介助、支援を行っている。	一日おきの入浴を基本としているが、希望者は毎日でも入浴可能としている。脱衣所はエアコンを設置し、冬でも寒さを感じず入浴出来るように配慮している。季節やお天気によっては入浴に気が進まない利用者もあり、時間をおいて声掛けするなど、本人の気持ちを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じた休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に頭に入れている。申し送りノート等の書き込みをチェックし、職員皆でも共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の手伝いで、野菜の皮むきをして頂いたり、洗濯物を干して頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や、職員とのドライブ等、本人様が喜ばれそうな場所を考えている。	桜・紫陽花等の花見、くまモンが描かれる「稲のアート」、「宮地岳かかし祭り」の見学等、季節を味わう外出支援を心がけている。また、利用者の希望に沿って自宅のある牛深までドライブし、お墓参り・ご近所への挨拶、海辺で魚料理を楽しむ等の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通院より帰られる途中、自動販売機で缶コーヒーを買われるのが、唯一の楽しみの方がいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望にて、その都度対応し電話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の各テーブルには季節の草花を飾っている。	デイルームは、食堂とキッチンを挟んでテレビが置かれたソファコーナー、掘り炬燵のある畳コーナーとなっており、9人の入所者が安心してゆっくりと過ごせるスペースが確保されている。	トイレの未使用時は、利用者の便利さを優先してドアが開放されたままとなっている。リビングに居ながらトイレ内が見えたり、来訪者の目線等を考えると、利用者の利便性に加え、プライバシー確保、来訪者の視点等も配慮した工夫が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫はしていないが、ソファより食卓が過ごされやすい方がいらっしゃいます。窓の外を眺められたり、食事作りの味見を楽しみにされたり、熱心に新聞を読まれたり過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、家族様に自宅で使い慣れたものをお持ちいただくようお願いしている。	居室はクローゼット・整理タンス・洗面台・ベッドが整備されている。利用者は寝具やテレビ、好みの装飾品、家族写真などに加え、好きな歌手のCDや書物等も自由に持ち込んで趣味を楽しむ暮らしも支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行困難な方には、ベッドの上で物が取れるようテレビのリモコンやハンドクリーム等を手の届く範囲に置いている。		